



発行所  
 社団法人 国民文化研究会  
 (九州←→東京←→全国)  
 東京都渋谷区東1-13-1-402  
 振替 00170-1-60507  
 電話 03-5468-6230  
 F A X 03-5468-1470  
 月刊「国民同胞」編集部  
 毎月一回10日発行  
 購読料 年間2000円

# 「信貴山」で、日本の進路を語り合おう！

合宿運営委員長 内海勝彦

昨年は、合宿教室発祥の地である霧島（鹿児島県）において、記念すべき「第五十一回合宿教室」を開催した。今夏「第五十二回」は奈良県「信貴山」で開かれる。信貴山は、聖徳太子が仏法護持の戦ひの折、出現した毘沙門天王から必勝の秘法を授けられたことから、自ら天王の尊像を彫られ信ずべき貴ぶべき山「信貴山」と名づけられたことに由来する霊山であり、「太子建立七寺」のひとつ「法隆寺」にも近い。二日目には法隆寺での研修も企画されてゐる。

今回お招きする東京大学名誉教授の小堀桂一郎先生は、過去八回に亘り本合宿にご出講を賜つてをり何れも感銘深いご講義を戴いてゐるが、四年ぶりのご出講となる今回は「聖徳太子の憲法と日本の國體」との演題でお話を伺ふことになつてゐる。日本の歴史を貫く「十七条憲法」の意義について、太子ゆかりの地でのやうなお話を拝聴できるのか今から心待ちにしてゐる。

もうお一人は、宮大工の小川三夫先生で、平成七年の第四十回合宿教室（神奈川県厚木市）に続き二度目のご出講。前回の「木のいのち木のころー西岡常一棟梁と私ー」と題されてのお話は大変感銘深く、ことに、ご講話終了後の「ヤリガンナ」の実演は今でも記憶に残つてゐる。今回

は法隆寺での研修の前にご講話をお願いしてゐるが、前回同様、宮大工が使はれる道具の実演もやっていただけることになつてゐる。昔の工人の心とそこから現代人が学ぶべき事などについて、貴重なご経験に裏打ちされたお話が拝聴できるものと思ふ。

近年、わが国では憲法改正を柱とする安全保障体制の強化、改正教育基本法と戦後教育の見直し、総理の靖国神社参拝や領土問題などでの歴史認識と外交政策のあり方、皇位継承の問題等々、重要課題が一举に表面化してゐる。これらの問題を一人一人が自らに係はる事柄として考へて行くに當つて、その本質・背景を十分に理解しておく必要があることは言ふまでもないが、そのためにも日本は本来どうあるべきなのか、今後の日本の進路はどうあるべきなのかについて伝統と文化に根ざして考へる基本姿勢の確立がさらに不可欠であらう。

受け継がれてきたテーマであるが、自分の体験から強く思ふことは合宿教室は「自問自答」の場であると言ふことである。

合宿ではさまざまな講義がなされ先人の文章が紹介されるが、知識を増やすことがこの合宿の目的ではない。むしろ、先人の言葉や生きた姿を前にして、驚いたり言葉にならぬ感動を体験したことが、その後、自分自身で物事を考へる力になつてゐるやうに思ふ。さうした体験を語り合へる人々との出会ひがこの合宿教室で実現できる。合宿教室に五回ご出講戴いた文芸評論家小林秀雄先生は昭和五十三年の第二十三回合宿教室（阿蘇）でのご講義で、次のやうな忘れられないお話をされてゐる。

「自分の知恵が人に伝はるのは、心を開いてその人と語り合ふ時だ。心を開いて、人を信じてお互に語り合ふところに、火花のやうに散る知恵が、本当に生きた知恵だ」

（感想―本居宣長をめぐる―）

今年もこのやうな学びの場と豊かな心の交流の世界が現出できると信じてゐる。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（株）アイ・エイチ・アイ・エアロスベ  
 ース勤務 教へ五十三歳